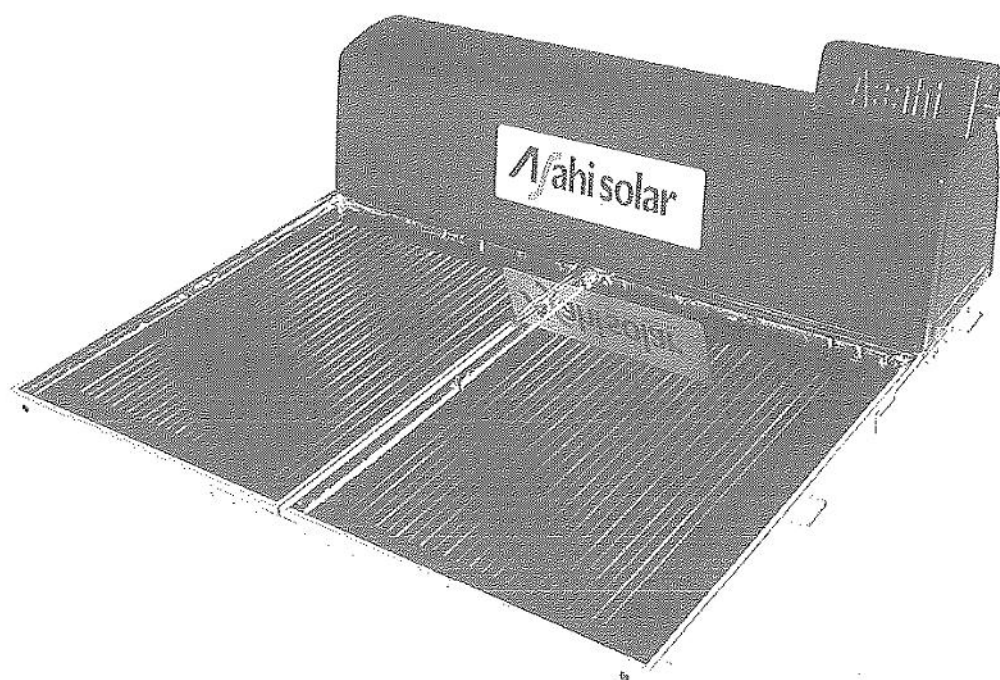


自然循環形 太陽熱温水器 ASN-230FB

取扱説明書

〈取扱編〉



ご購入ありがとうございます。

ご使用前に取扱説明書をご家族全員でよくお読みいただき正しい使用をお願いします。いつでも見られるように保証書と共に大切に保管してください。



朝日ソーラー株式会社

はじめに

- この取扱説明書は、一般家庭用の太陽熱温水器、自然循環形ASN-230FBのご利用上の注意、操作方法を説明している『取扱編』です。
- この製品は、太陽熱を利用してお湯をつくる機器です、太陽熱を集熱する集熱部（コレクター）と、集熱したお湯を保温する貯湯部（タンク）から成り、集熱部と貯湯部との間を太陽熱で自然循環させ、効率よくお湯をつくっていきます。
- この製品は、日本国外での使用はしないでください。日本国内（沖縄を除く）においてのみご使用ください。また、一般家庭用の太陽熱温水器として機器構成されているので、他の目的での使用は決してしないでください。使用にあたっては上水（水道水等）を使用してください。これ以外の液体（温泉水等）の加熱には使用できません。腐食やつまりをおこして故障の原因となります。
- 自然循環形太陽熱温水器の特性上、凍結時は、ご利用いただけません。長期間、快適にご使用いただくためにも、凍結のおそれがある時は水抜きをしていただき、お使いにならないようお願いいたします。設置条件や地域によって使用時期が異なります。
- この製品の施工には専門的技術知識が必要になり、地域や設置形状によって施工方法や使用部材がかわる場合があります。この製品を移設される時、又は他の人に譲渡する場合は、お買い上げ支店または、お引渡し支店へご連絡ください。
- 商品を譲渡する際は、必ず取扱説明書を添えて新たな所有者が安全に使用できるようにしてください。
- 別途購入された機器については、各機器の説明書を参照してください。お取扱中に少しでも不確かなことが生じたら、本書又は、別途購入された機器の取扱説明書により確かめて正しい方法でお使いください。

もくじ

• 特に注意していただきたいこと。安全のために必ずお守りください。……………	1
• 各部の名称・各部のなまえ……………	7
• 日常の点検……………	8
• 使用準備……………	8
• 使用方法・使い方……………	9
• 使用上の注意……………	11
• 凍結による破損の予防……………	13
• 強風・積雪・地震への対応……………	14
• 長期間使用しない場合……………	18
• 定期の点検・手入れ……………	19
• 故障・異常の見分け方と処置方法、修理を依頼される前に……………	22
• 仕様……………	23
• 据付け点検……………	24
• 使用しなくなった場合……………	25
• アフターフォロー……………	26

□特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください。

- ご使用の前にこの取扱説明書をよく読んで、理解してから太陽熱温水器を使用してください。『特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください』は、安全のためにお読みの上正しくお使いください。
- ここに示した事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を『△ 警告』、『△ 注意』の2つに区分して示しています。
安全の確保のために大切な事項ですので必ず守ってください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は高温注意）が描かれています。



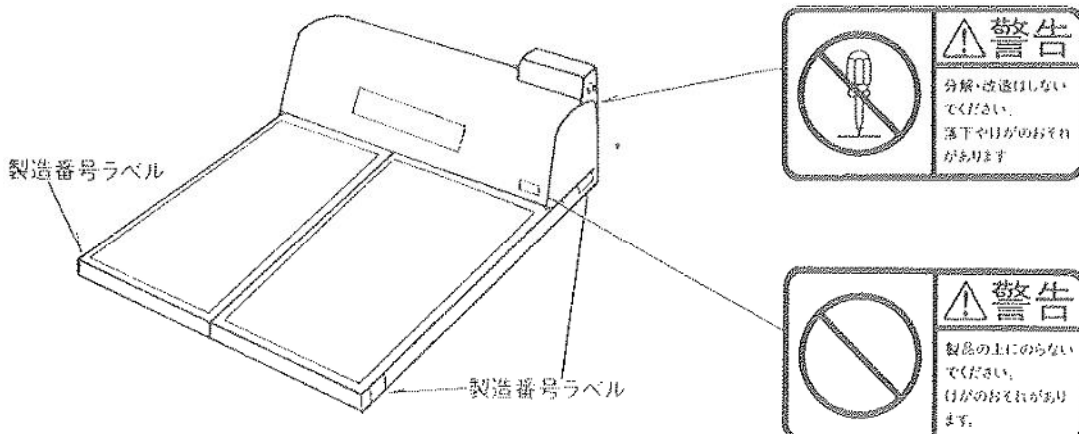
⊘記号は禁止行為の内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解や改造の禁止）が描かれています。



⓪記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は、一般の強制）が描かれています。

安全のための表示

下記の表示ラベルは、とくに重要なものとして温水器本体に貼付けされています。

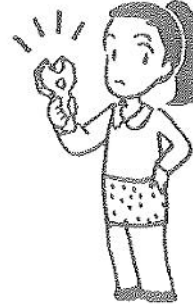


警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり、改造はしないでください。

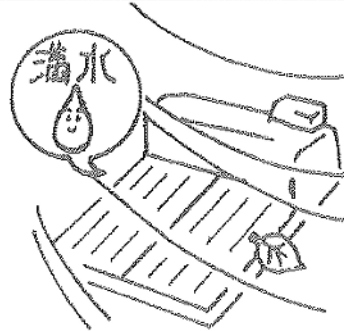
落下やけがのおそれがあります。

分解禁止



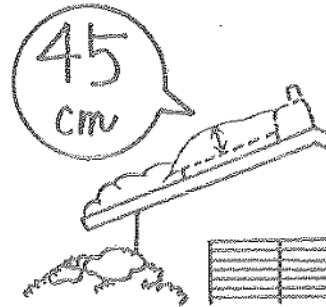
- 強風時は、温水器を必ず満水にしておいてください。

軽い状態は、強風の影響を受けやすく、ずれをおこすおそれがあります。



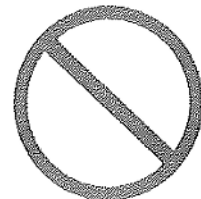
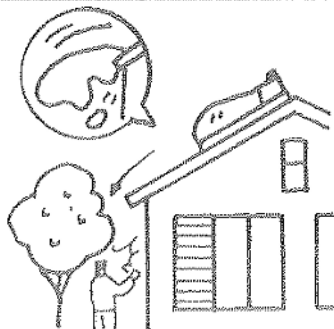
- 温水器に45cm以上の積雪があった時は必ず、雪おろしをしてください。

重量で落下したり、屋根を破損したりするおそれがあります。



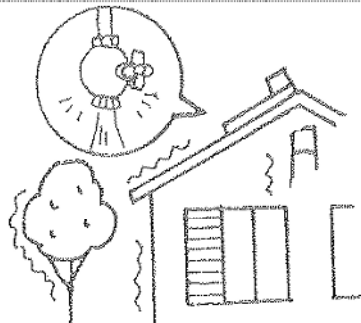
- 積雪が温水器にある際は、その軒下を人に通行させないでください。

雪解けして、一度に雪が落ちてけがをするおそれがあります。



- 地震が頻発している際は、水抜きをしておいてください。

重いと固定線の負担が大きく、ずれのおそれがあります。

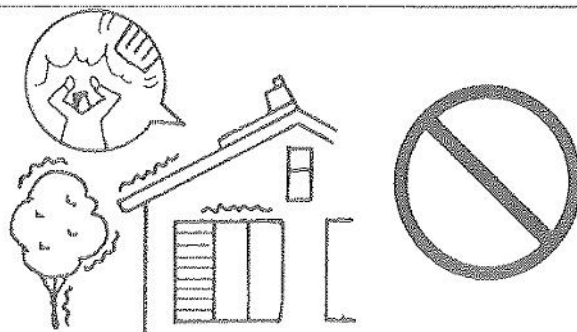


特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください。

警告

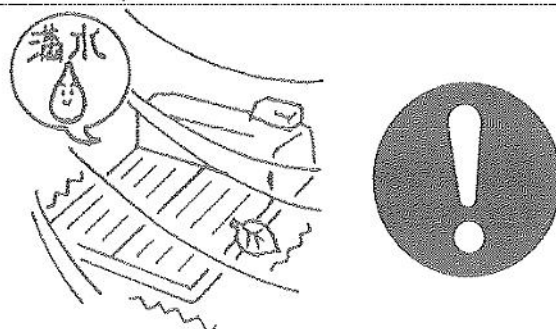
- 地震が頻発している際は、設置してある軒下を人に通行させないでください。

落下してけがをするおそれがあります。



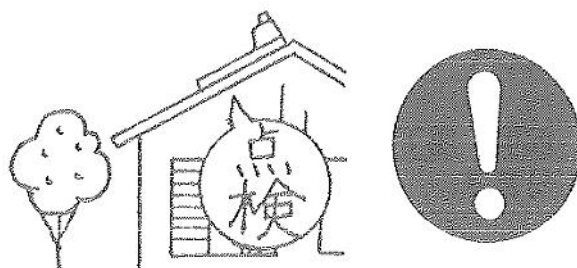
- 地震が頻発している際に、強風が予想されるときは、温水器を満水にしておいてください。

軽い状態は、強風の影響を受けやすく、ずれをおこすおそれがあります。



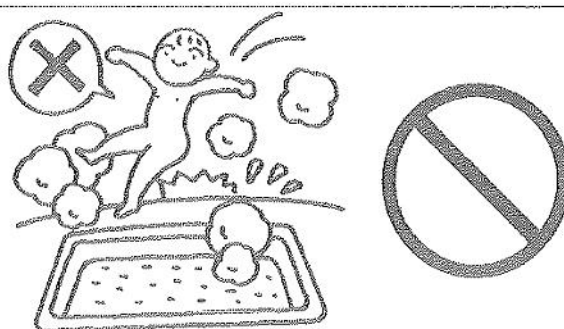
- 強風後、豪雪後、および地震後、固定線や固定部の点検をしてください。

固定部や取付け部がゆるんでいると危険です。



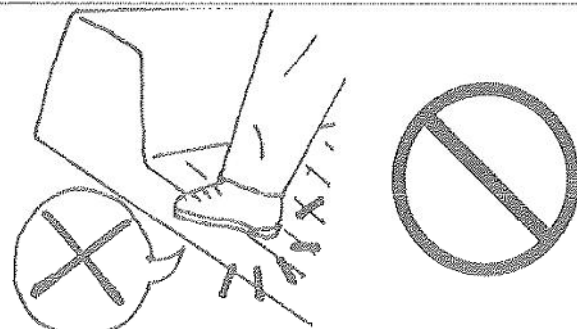
- 小さなお子様の一人の入浴はさせないでください。

給湯した高温のお湯に飛び込んだりしてやけどをするおそれがあります。



- 製品の上に乗らないでください。

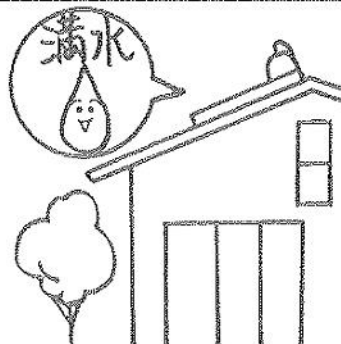
けがや故障のおそれがあります。



警告

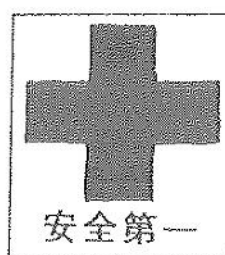
- ・長期間不在にする時は、温水器を満水の状態にしておいてください。

軽い状態は、強風の影響を受けやすく、ずれをおこすおそれがあります。



- ・お手入れ点検の際は、安全対策を十分ほどこしてからしてください。

屋根から落下したり、けがをするおそれがあります。



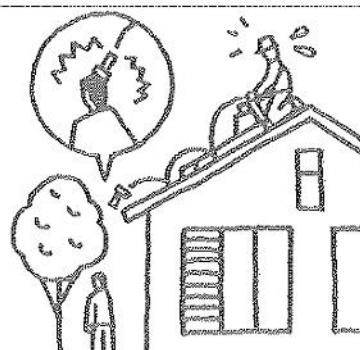
- ・屋根上では、本体・固定線・配管に注意してください。

転倒、落下してけがをするおそれがあります。



- ・お手入れ点検の際は、その軒下を人に通行させないでください。

屋根から物を落下させて、けがをさせるおそれがあります。



- ・温水器を使用しなくなった時は撤去してください。

そのまま放置しておく、落下やけがのおそれがあります。



⚠ 注意

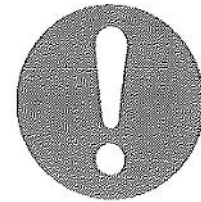
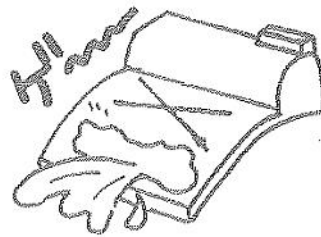
- 温水器の水は飲用に用いないでください。

温水器の水は変質することがあり、健康を損なうおそれがあります。



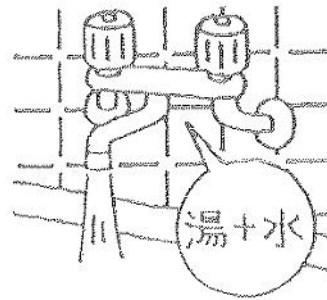
- 長期間貯水していた水は、一度全て排水し、新たに給水してご使用ください。

水質が悪化している場合があります、健康を損なうおそれがあります。



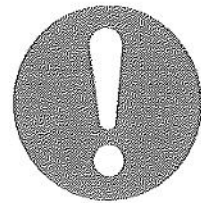
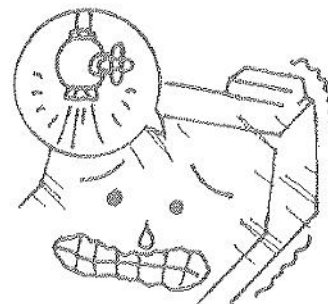
- 長期間貯水していた後に溜っていた水を排水するときは、水と混合して適温にして排水してください。

著しく高温になっていた場合は、屋内外の排水経路上の人のやけどのおそれがあります。



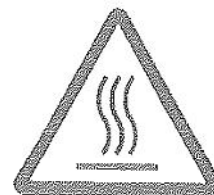
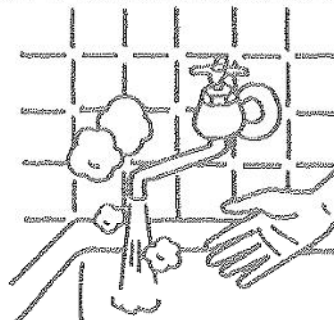
- 凍結する心配のある場合は、水抜きをしてください。

配管等が破裂して漏水の原因になるおそれがあります。



- 給湯中の湯温の確認は注意してください。

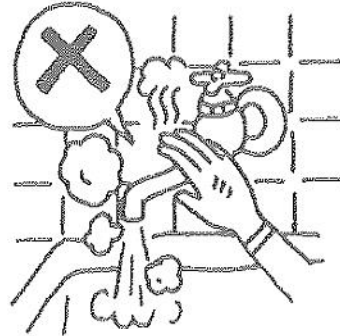
急に熱いお湯がでる場合があります、やけどをするおそれがあります。



⚠ 注意

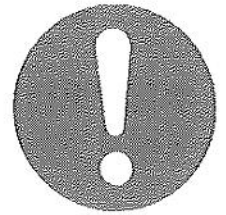
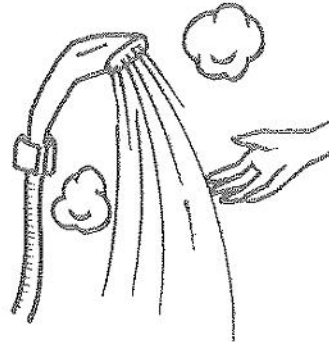
- 給湯中の水栓器具・配管はお湯で熱くなっています。金属部等に触れないでください。

やけどをするおそれがあります。

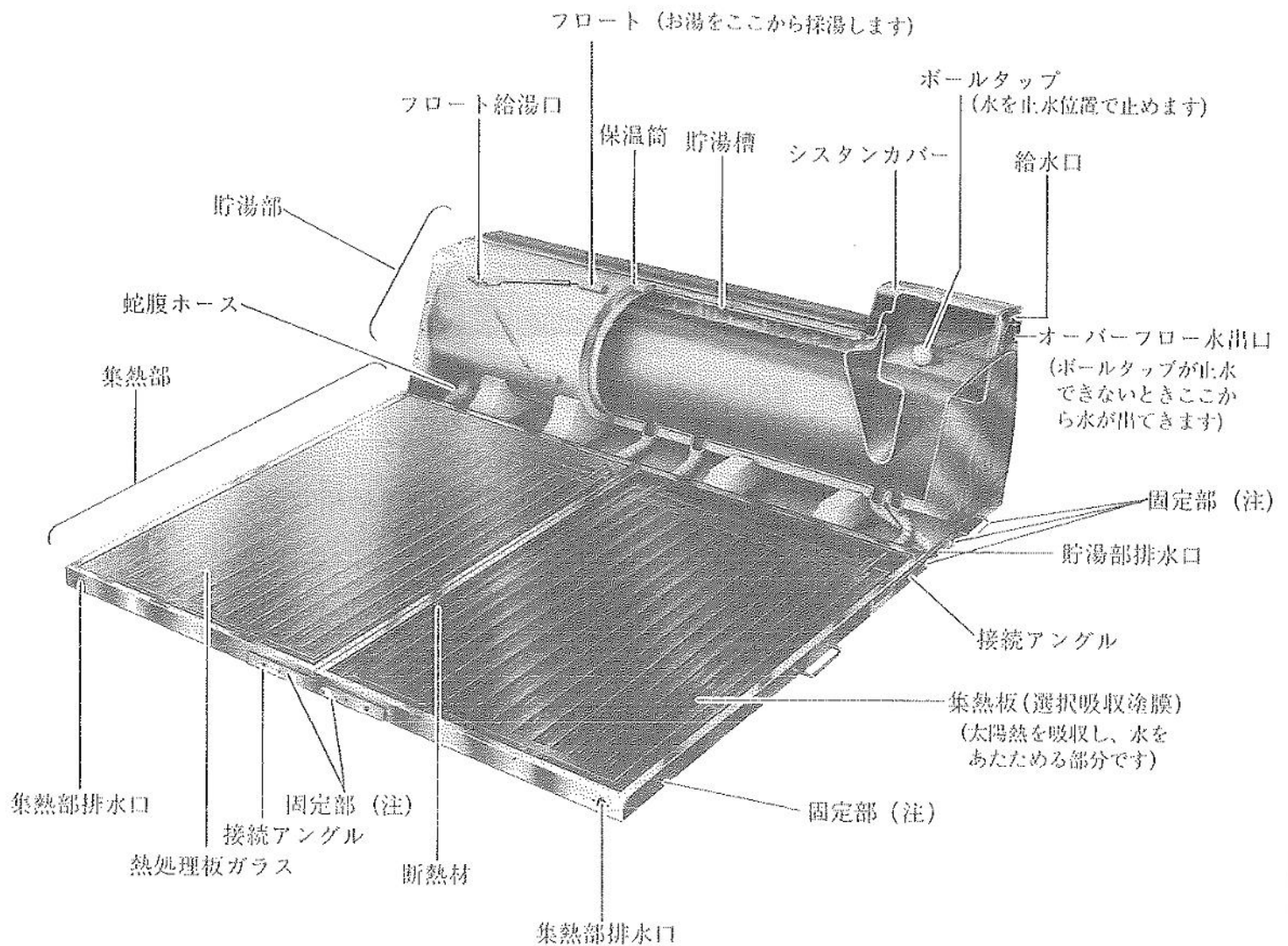


- シャワーを使用する場合、手で湯の温度を確かめてから使用してください。

やけどをするおそれがあります。



各部の名称・各部のなまえ



(注) 架台使用時には、架台の固定部を使用します。この固定部は使用しません。

□日常の点検

- 太陽熱温水器は、日常次の項目を確認して正しくお使いください。
- もし異常があった場合は、「故障・異常の見分け方と処置方法」(P.22)に従って処置してください。

■温水器の固定状態確認

固定線の切れ、ゆるみがないか目視確認してください。

■本体・配管の水漏れ確認

本体・配管からの水漏れがないか目視確認してください。

□使用準備

- 太陽熱温水器は、温水器に溜めた水を太陽熱で加熱して給湯します。ご使用前に、まず給水しておきます。
- 凍結・強風・積雪・地震のおそれがあるときは、「凍結による破損の予防」(P.13)と「強風・積雪・地震への対応」(P.14)を参照してください。

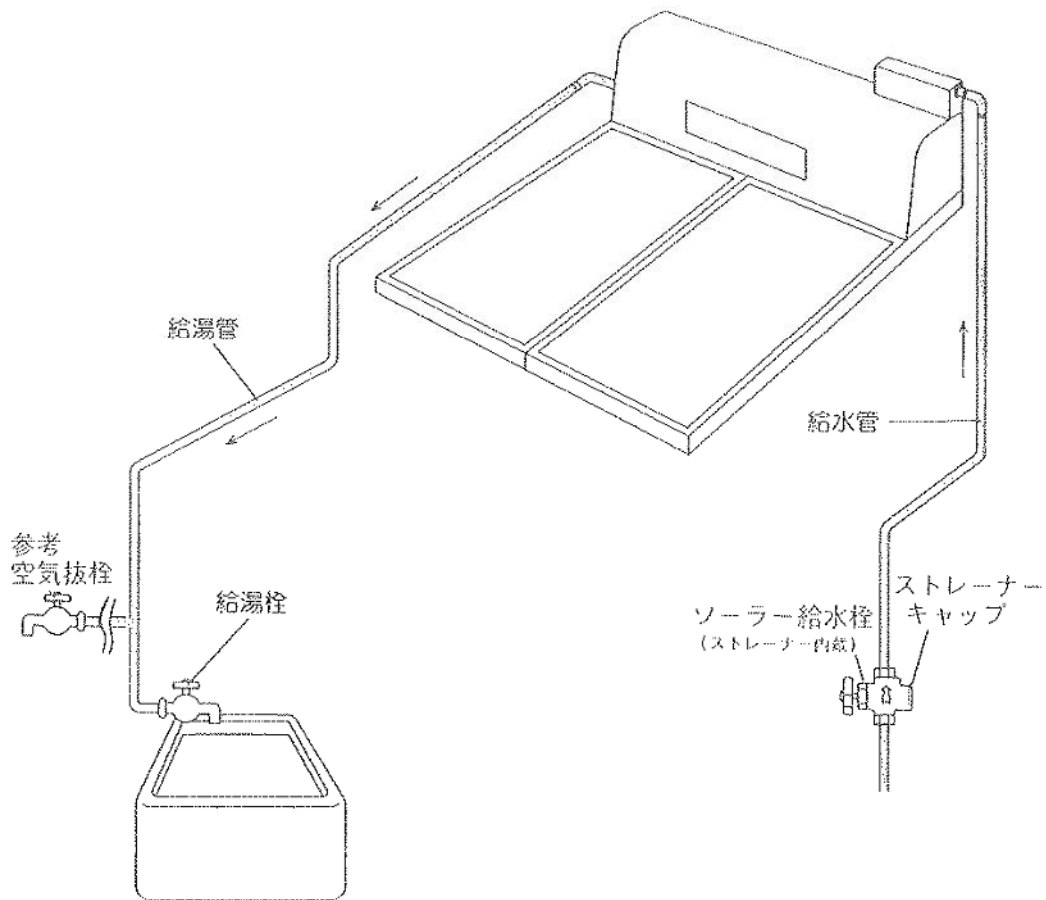
〔手順〕

- (1) 給湯栓と給水管水抜き栓が、閉じていることを確認してください。
- (2) ソーラー給水栓を開き水を温水器に給水してください。貯湯槽が満水になれば、ボールタップにより給水は自動的に止ります。

〈参考〉空気抜栓がある場合

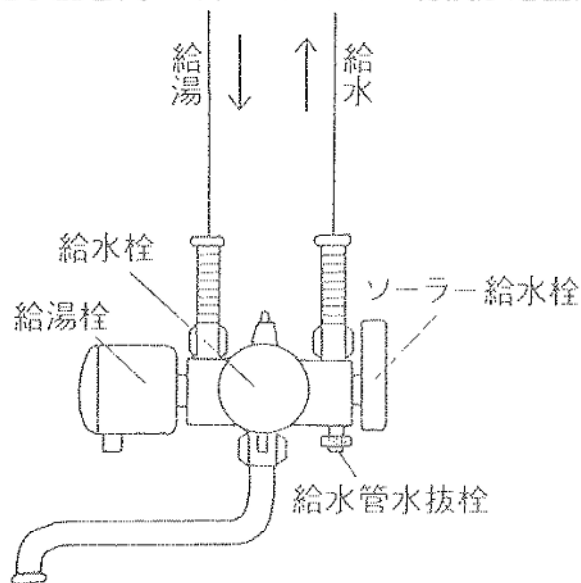
空気抜栓を開いて、ソーラー給湯管のお湯が流出することを確認してください。

□使用方法・使い方



ソーラー専用バルブをご使用の場合

給水・給湯・水抜き（給水配管内のみ）・シャワー切替が浴室内でできます。



(注) 詳しくはバルブの取扱説明書をご覧ください。

給湯方法には2つの方法があります。

■自動給水方式

自動給水方式とは、給湯栓から給湯した分だけ自動的に温水器に給水されます。給水の操作の必要がありません。但し一定量以上を出すと湯温は次第に低くなり、更にそれ以上使うと水が出てきます。

〔手順〕

- (1) 給湯栓を開いてください。
- (2) 浴槽が適量になったら、給湯栓を閉じてください。

■使い切り方式

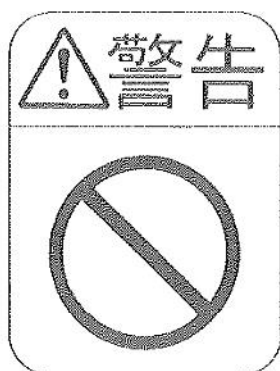
使い切り方式とは、温水器に給水しないで温水器で沸いたお湯を給湯する方法です。所定容量を使うと給湯が止まります。冬場の給湯方法におすすめします。使用後の給水を忘れないでください。

〔手順〕

- (1) ソーラー給水栓を閉じてください。
- (2) 給湯栓を開いてください。

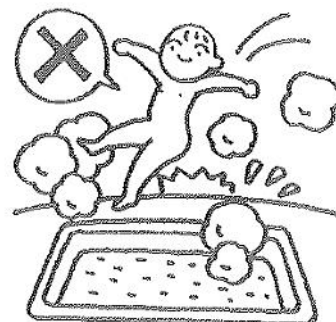
■使用上の注意

■小さなお子様の入浴



・小さなお子様の一人の入浴はさせないでください。

給湯した高温のお湯に飛び込んだりしてやけどをするおそれがあります。



■飲用に用いないでください

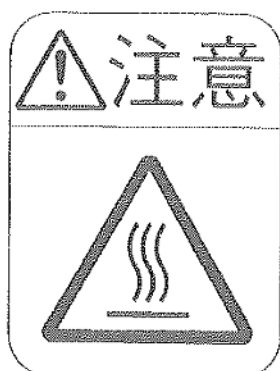


・温水器の水は飲用に用いないでください。

温水器の水は変質することがあり、健康を損なうおそれがあります。

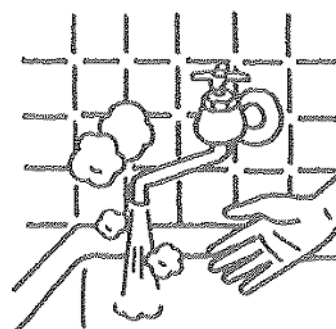


■給湯中の湯温の確認（蛇口）



・給湯中の湯温の確認は注意してください。

急に熱いお湯がでる場合があり、やけどをするおそれがあります。



・指先でお湯に瞬間的に触れるぐらいで湯温を確かめてください。

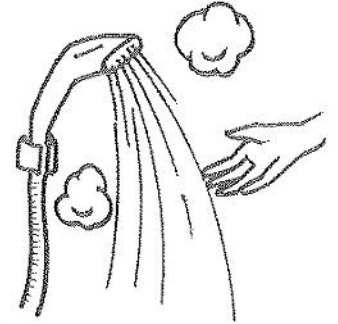
■湯温の確認（シャワー）

 注意



・シャワーを使用する場合、手で湯の温度を確かめてから使用してください。

やけどをするおそれがあります。



・指先でお湯に瞬間的に触れるぐらいで湯温を確かめてください。

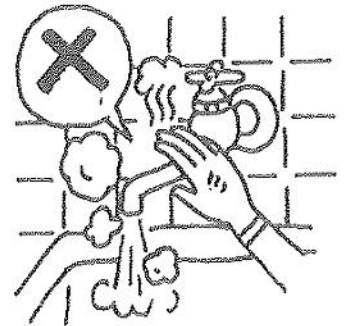
■水栓器具・配管の高温注意

 注意



・給湯中の水栓器具・配管は、お湯で熱くなっています。金属部等に触れないでください。

やけどをするおそれがあります。



■空たきについて

貯湯部に水がない空の状態では直射日光が当たると、異常に温度が上昇し、温水器の寿命を縮めるおそれがあります。必ず満水の状態にしてご使用ください。

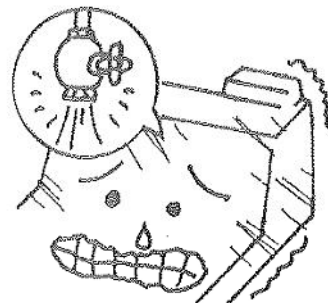
■凍結による破損の予防

■凍結による破損の予防



・凍結する心配のある場合は、水抜きをしてください。

配管等が破裂して漏水の原因になるおそれがあります。



〔手 順〕

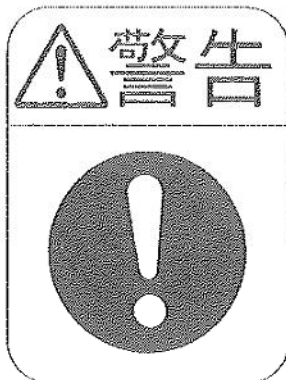
- (1) ソーラー給水栓を閉じてください。
- (2) 給湯栓を開いて、温水器の水を排水してください。
- (3) 給水管水抜き栓を開いて、給水管の水抜きをしてください。

再使用される場合は、「使用準備」の手順に従ってください。(P. 8)

□強風・積雪・地震への対応

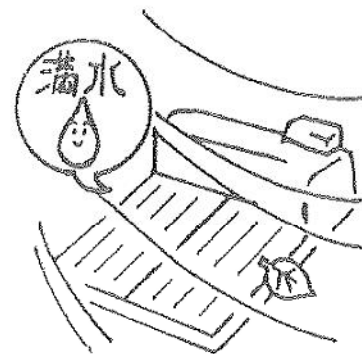
■強風への対応

1. 強風がくる前に



- 強風時は、温水器を必ず満水にしておいてください。

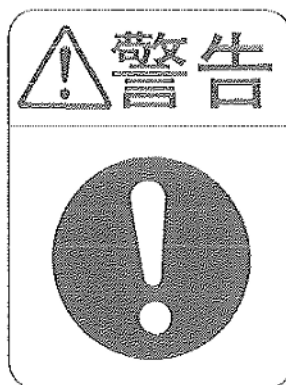
軽い状態は強風の影響を受けやすく、
ずれをおこすおそれがあります。



〔手順〕

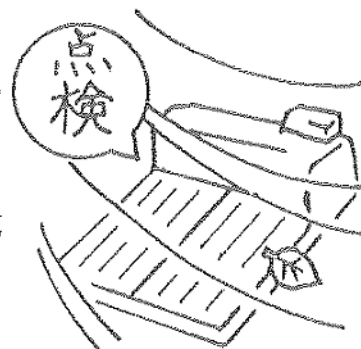
- (1) 強風時には、温水器を必ず満水にして、温水器の重量を増しておいてください。
- (2) ソーラー給水栓を閉めてください。

2. 強風のあとに



- 特に、強風の後には固定線や、固定部の点検をしてください。

固定部や取付け部がゆるんでいると危
険です。



強風通過後には、「定期の点検・手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P.19)

■積雪への対応

1. 積雪時の対応



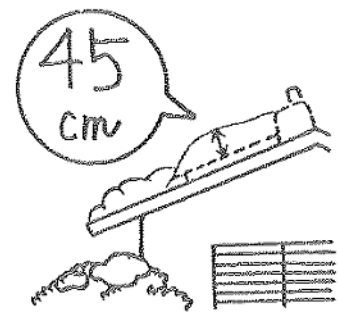
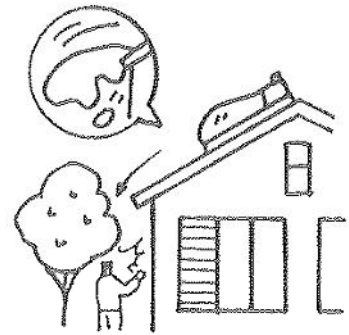
- 積雪が温水器にある際は、その軒下を人に通行させないでください。

雪解けして、一度に雪が落ちてけがをするおそれがあります。



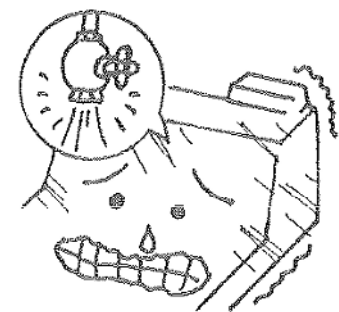
- 温水器に45cm以上の積雪があった時は必ず、雪おろしをしてください。

重量で落下したり、屋根を破損したりするおそれがあります。



- 凍結する心配のある場合は、水抜きをしてください。

配管等が破裂して漏水の原因になるおそれがあります。



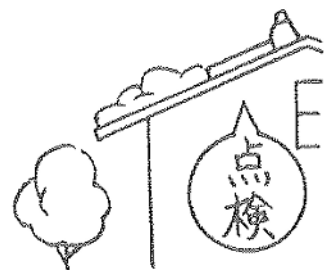
- 水抜きをする際は、「凍結による破損の予防」を参照してください。(P.13)
- 雪おろしをする際は、「定期の点検、手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P.19)

2. 豪雪のあとに



- 特に、豪雪の後は固定線や、固定部の点検をしてください。

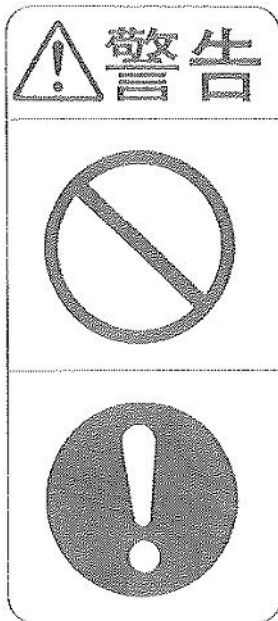
固定部や取付け部がゆるんでいると危険です。



- 豪雪後には、「定期の点検、手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P.19)

■地震への対応

1. 頻発地震時（強風が予想されないとき）

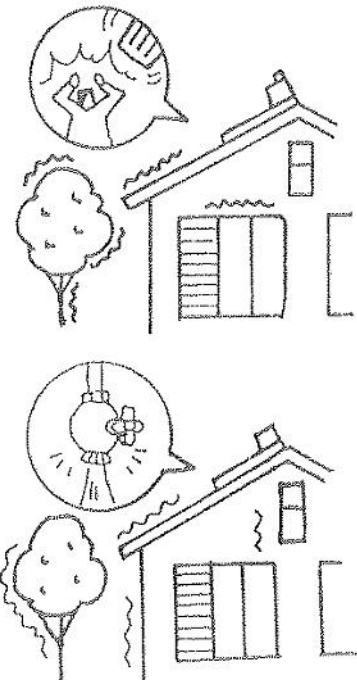


・地震が頻発している際は、設置してある軒下を人に通行させないでください。

落下してけがをするおそれがあります。

・地震が頻発している際は、水抜きをしておいてください。

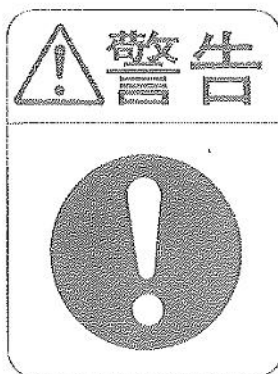
重いと固定線の負担が大きくなりずれのおそれがあります。



・地震が頻発しているときですので、地震に対しては、温水器が空の状態の方が固定線の負担が軽くなりますので、水抜きをしてください。

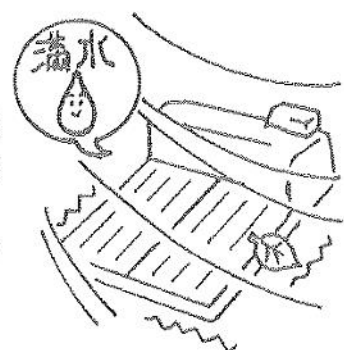
・水抜きをする際は、「凍結による破損の予防」を参照してください。（P.13）

2. 頻発地震時（強風が予想されるとき）



・地震が頻発している際に、強風が予想されるときは、温水器を満水にしておいてください。

軽い状態では、強風の影響を受けやすく、ずれをおこすおそれがあります。



地震が頻発しているときですので、水抜きされている状態になっています。強風に対しては、満水にしていた方が、固定線の負担が軽くなりますので満水にしておいてください。

〔手順〕

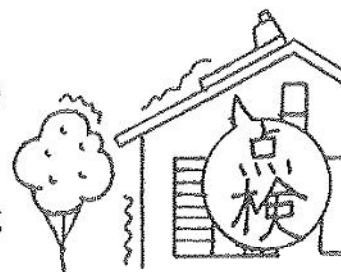
- (1) 温水器を満水にして、温水器の重量を増しておいてください。
- (2) ソーラー給水栓を閉めてください。
- (3) 強風が過ぎたら、再度水抜きをしてください。

3. 地震のあとに



- 特に、地震の後は固定線や、固定部の点検をしてください。

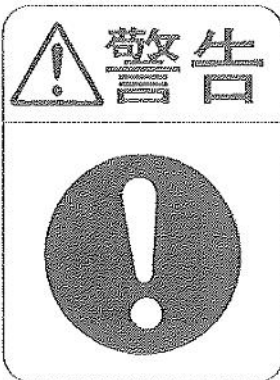
固定部や取付け部がゆるんでいると危険です。



- 地震の後には、「定期の点検・手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P.19)

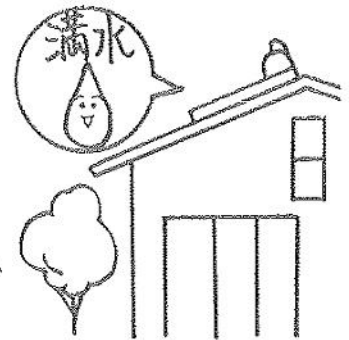
□長期間使用しない場合

■お出かけ前の準備



・長期間不在にする時は、温水器を満水の状態にしておいてください。

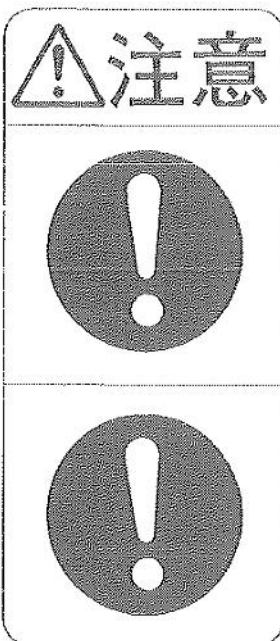
軽い状態は、強風の影響を受けやすく、ずれをおこすおそれがあります。



〔手順〕

- (1) 「定期の点検・手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P. 19)
- (2) 温水器を必ず満水にして、温水器の重量を増しておいてください。不在中の台風や強風への処置です。
- (3) ソーラー給水栓を閉めてください。

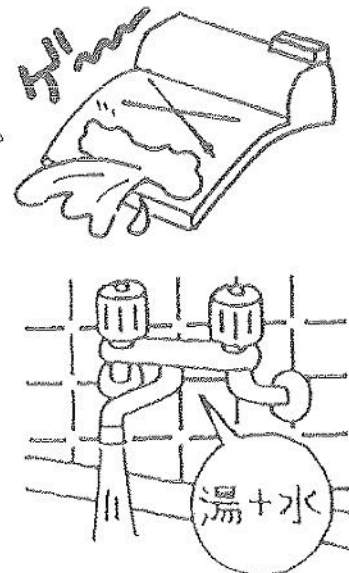
■おかえりになった時の処置



・長期間貯水していた水は、一度全て排水し、新たに給水してご使用ください。

水質が悪化している場合があります。体調の不調の原因になるおそれがあります。

・長期間貯水していた後に溜っていた水を排水する時は、水と混合して適温にして排水してください。著しく高温になっていた場合は、屋内外の排水経路上の人のやけどのおそれがあります。



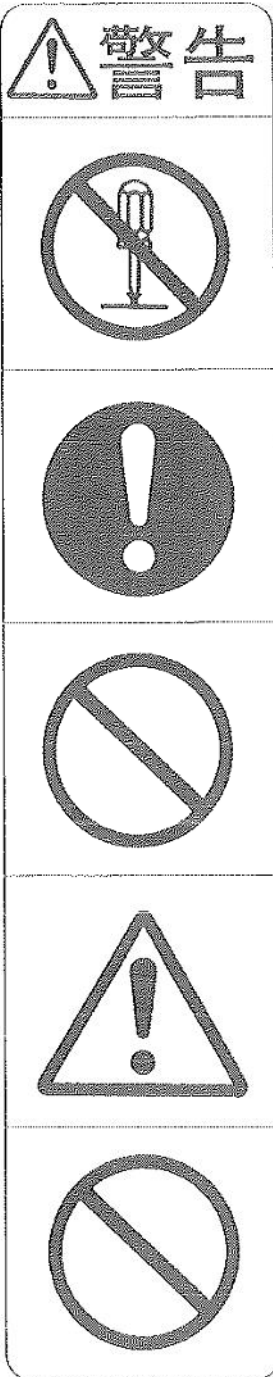
〔手順〕

- (1) 「定期の点検・手入れ」に従って、温水器の固定状態を点検してください。(P. 19)
- (2) 給湯栓を開き、温水器の水を全て排水してください。
- (3) ソーラー給水栓を開き5分～10分ほど、給湯栓より水を流し貯湯槽を洗い流します。
- (4) 給湯栓を閉めて、ソーラー給水栓を開き温水器を満水にしてください。

定期の点検・手入れ

もし異常があった場合は、「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処理してください。

(P.22)



- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり、改造はしないでください。

落下やけがのおそれがあります。

- お手入れ点検の際は、安全対策を十分ほどこしてからしてください。

屋根から落下したり、けがをするおそれがあります。

- お手入れ点検の際は、その軒下を人に通行させないでください。

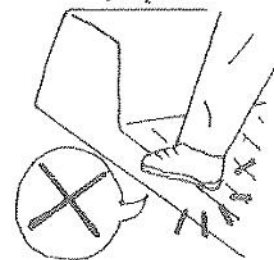
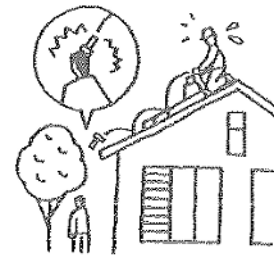
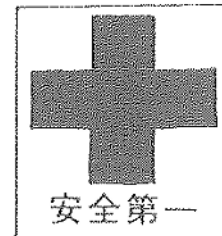
屋根から物を落下させて、けがをさせるおそれがあります。

- 屋根上では、本体・固定線・配管に注意してください。

転倒、落下してけがをするおそれがあります。

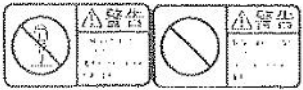
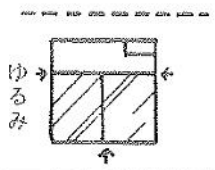


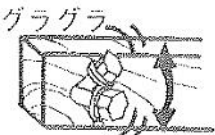
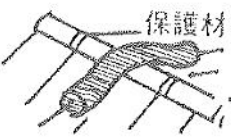
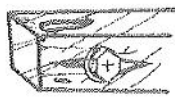

- 製品の上に乗らないでください。

けがや故障のおそれがあります。



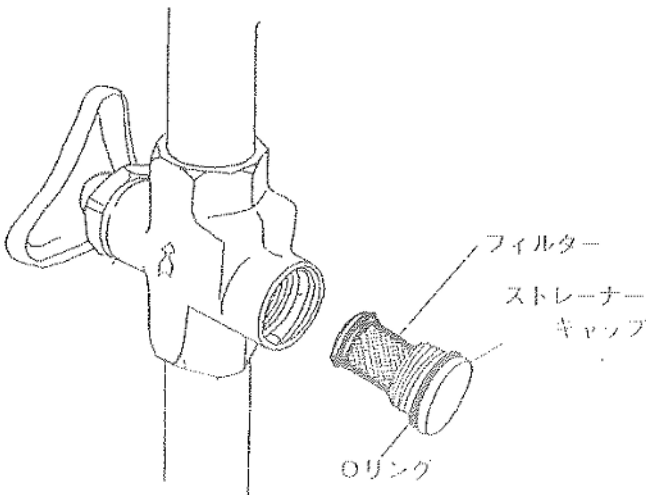
■ 6ヶ月点検

温水器は、長年使用している間に、固定状態が変化してくるおそれがあります。強風・豪雪・地震によっても同様のおそれがあります。すくなくとも6ヶ月毎および強風・豪雪・地震の後や、長期間使用しない場合の前後は、次の項目を点検してください。

項目	確認事項	点検・手入れのしかた
警告ラベル	警告ラベル	<ul style="list-style-type: none"> 色あせてないか、はがれていないか、確かめてください。 
固定状態	温水器の取付け状態	<ul style="list-style-type: none"> 本体が左右水平に取付けられているか、本体・ボルト類にゆるみがないか確かめてください。 
	固定線の張り強度	<ul style="list-style-type: none"> 固定線にゆるみがないか確かめてください。 
	固定線の傷やサビ	<ul style="list-style-type: none"> 固定線に傷やサビのないことを確かめてください。 
	固定線取付け部分のゆるみやサビ	<ul style="list-style-type: none"> 本体や軒先の固定線取付け部分の取付け状態にゆるみやサビのないことを確かめてください。 
	保護材の位置	<ul style="list-style-type: none"> 固定線と瓦が接触する所には保護材(ポリパイプ等)があててあります。固定線が直接瓦にあたっていないか確かめてください。 
	軒先の腐食	<ul style="list-style-type: none"> 取付け先の木材等の腐食やワレのないことを確かめてください。 
配管状態	配管の取付け	<ul style="list-style-type: none"> 配管が確実に家屋等に固定されていて漏れのないことを確かめてください。 

■ 3ヶ月点検

地域によって砂やゴミの多いところがあります。ソーラー給水栓のストレーナーの中にフィルターが入っていますので、フィルターが詰まらないように掃除してください。(点検期間は地域の水質によって異なる場合があります。)

項 目	確認事項	点検・手入れのしかた
ストレーナー	ストレーナーの掃除	<ol style="list-style-type: none"> (1) ソーラー給水栓を閉じて止水してください。 (2) 給湯栓を開いて温水器のお湯を少量排水したのち閉じてください。 (3) 給水管水抜き栓を開いて配管の水抜きをしてください。 (4) ストレーナーのキャップを回して取外してください。 (5) 中のフィルターを取り出し、歯ブラシでゴミを取り除き水洗いしてください。 (6) 黒いパッキン（Oリング）がキャップの所定の位置にあることを確かめてください。 (7) フィルターをもどしキャップを取付けてください。 (8) 給水管水抜き栓を閉じてください。 (9) ソーラー給水栓を開いて通水させてください。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

■故障・異常の見分け方と処置方法、修理を依頼される前に

- ご使用中に万一不都合なことが発生したときは、下記の項目にしたがって原因を調べ処置してください。
- ご自分で処置ができない場合、また原因の分からない場合は保証書に記載しているお買い上げ支店または、お引渡し支店にご相談ください。

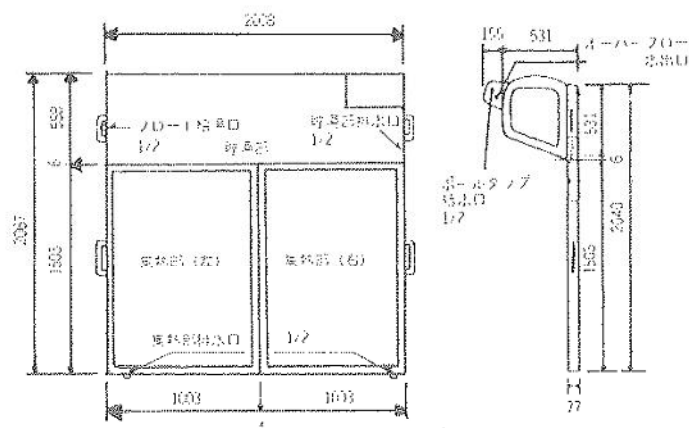
現 象	原 因	処 置 方 法
本体や配管のずれ、 固定状態や保護材の 異常	針金が伸びたり、固定状態 の異常です。	担当支店にご連絡ください。
警告ラベルがうすれ ている、はがれてい る	設置環境によっては異なり ます。	
給水が止まらない	ボールタップのゴミかみ。	ソーラー給水栓を閉じて、給湯 栓を開き、30ℓ程排水して、ソ ーラー給水栓を開く。この動作 を2～3回行ってください。
	ボールタップのパッキン消 耗。	担当支店にご連絡ください。
	配管接続部の水もれ。	ソーラー給水栓を閉じて、担当 支店にご連絡ください。
温度が上がらない	循環経路のごみづまり	担当支店にご連絡ください。
	温水器本体の傾斜。	
給水されない	給水栓を閉じている。	ソーラー給水栓を開いてくださ い。
	断水している。	通水を待ってください。
	給水配管が凍結している。	溶けるのを待ってください。
	ストレーナーがつまってい る。	フィルターを掃除してください。
	ボールタップの故障。	ソーラー給水栓を閉じて、担当 支店にご連絡ください。

現象	原因	処置方法
給湯されない	給水するのを忘れた。	ソーラー給水栓を開いてください。
	給湯配管が凍結している。	溶けるのを待ってください。
	給湯栓の不良（パッキン）。	担当支店にご連絡ください。
	空気溜りができている。	ソーラー給水栓が開いているが確かめて、給湯栓を開いてみてください。(P. 8 空気抜栓参照)

仕 様

形 式	ASN-230FB	集 熱 板	特殊ステンレス鋼板
種 類	自然循環形	透 明 板	熱処理板ガラス 3.0mm
集熱部面積	3.0㎡(2枚)(有効集熱面積2.87㎡)	貯 湯 槽	高密度ポリエチレン
有効採湯量	約200ℓ(フオート給湯方式約196ℓ)	保 温 材	発砲スチロール
寸 法	W2008×D2040×H686	外 装	フッ素樹脂塗装ステンレス鋼板 ステンレス鋼板
配管口径	給水口 1/2	重 量	集熱部 54kg (27kg×2) 貯湯部 32kg
	フオート給湯口 Rc1/2		
	貯湯部排水口 Rc1/2		
	集熱部排水口 Rc1/2	満水時重量	約302kg

■外形寸法



□据付け点検

太陽熱温水器の据付けが終了したら、以下の据付け点検表により、お客様と施工者で点検していただき、ご確認のうえお受け取りください。

据付け点検表

点検項目		判断基準
設置状態	各種固定金具はしっかりと、たる木やもやに取付けられていること。	目視にて異常のないこと。
	コーチ釘は抜け方向に取付けられていないこと。	目視にて抜け方向でないこと。
	固定線と瓦等との接触部は保護材を使用していること。	目視にて使用してあること。
	固定線は確実に張っていること。	目視にて重大なゆるみのないこと。
	警告ラベルは貼ってあるか。	据付け前に貼ってあることを確認。
	設置方位に問題のないこと。	その家で最も日照条件の良い場所であること。
	設置傾斜角度に問題のないこと。	20°～35°
	設置位置に問題のないこと。	棟への乗せかけ、外壁線外へのはみだしのないこと。
	貯湯部、集熱部は屋根瓦にそって接触していること。	左右水平であり、屋根勾配に準じていること。
各締付部にゆるみがないこと。	施工者の確認を見てもらう。	
通水経路	ソーラー給水栓（ストレーナー内蔵）が取付けられていること。	使用説明時に確認できること。
	適切な保温、加温がなされていること。	目視にて確認
	配管は屋根や壁に確実に固定されていること。	固定されていること。

点 検 項 目		判 断 基 準
通 水 経 路	給湯配管は下り勾配になっていること。	U字配管になっていないこと。(軒先等)
	ボールタップの作動は確実か。	施工者の確認を見てもらう。
	給湯栓から確実に水がでること。	吐水状態が安定していること。
	給湯栓からの吐水に汚れのないこと。	にごり水や異物がでてこないこと。
	漏水の確認。	通水経路に漏水のないこと。
そ の 他	書類は全てあること。	取扱説明書（取扱編）、必要事項の記載された保証書があること。
	後かたづけの状態。	廃材等の処理がなされていること。
	工具等の放置。	工具箱のチェック。
	生産物の破損。	作業範囲を同行してもらい、壁、植木鉢等の破損のないこと。

□使用しなくなった場合

警告



・ 温水器を使用しなくなった時は撤去してください。

そのまま放置しておくと、落下やけがおそれがあります。



- ・ ご使用にならなくなった温水器は、撤去してください。点検等をおこたり、放置しておくと危険です。
- ・ ご自分で撤去することは危険ですので避けてください。施工技術者か、お買い上げ支店または、お引渡し支店にご相談ください。

□アフターフォロー

■保証書

保証書は必ず『お買い上げ支店または、お引渡し支店・お引渡し年月日』などの記入をお確かめになり、お買い上げ支店または、お引渡し支店から受け取っていただき、内容を良くお読みの上大切に保管してください。

■保証期間中に修理を依頼される時。

『故障・異常の見分け方と処置方法、修理を依頼される前に』を調べていただき、なお異常がある時は、お買い上げ支店または、お引渡し支店にご連絡ください。修理の際には保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

〈ご連絡していただきたい内容〉

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品形式・お引渡し年月日
- 故障内容・異常の状況（できるだけ詳しく）
- お買い上げ支店または、お引渡し支店

■保証期間経過後修理を依頼される時

修理して使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。「保証期間中に修理を依頼される時」と同様の内容をご連絡ください。

■保証期間中の修理などアフターフォローについて不明な点は

お買い上げ支店または、お引渡し支店にお問い合わせください。

■移設される時、又は他の人に譲渡する場合

本製品の施工には専門的技術知識が必要になり、地域や設置形状によって施工方法や使用部材が変わる場合があります。この製品を移設される時、又は他の人に譲渡する場合は、お買い上げ支店または、お引渡し支店へご連絡ください。お客様の方で工事をされる場合は、必ず取扱説明書（工事編）をお取り寄せになり、「ソーラー施工技術者」の資格を有する施工技術者にご依頼ください。

取扱説明書は製品の一部です。本製品を他の人に譲渡する場合は製品と一緒に取扱説明書を渡してください。

